

平成25年度を振り返り

事務局長 田中 恵子

新しい支援体制の中、ご尽力頂き感謝申し上げます。

指導者の皆様が各々の学校方針や担任の意向をよく理解し、連携支援することにより、子どもたちに学びの姿勢や意欲が見られ、日本語力や学力の向上につながったと思われま

す。日本語の指導内容の知識、学習支援のあり方や実践の指導方法及び教材の作り方等、自己研鑽は勿論ですが、協会全体として研修することができました。指導の質の向上のみならず、子どもたちへの様々な支援が、ぬくもりを持った人間関係の中で実施されていくことの大切さも伝わったように思います

一方、母国語教室では、各々イベントも開催され、保護者をも巻き込んだ子どもたちの教育環境作りに役立ちました。継続は力なり —— また一年、皆様のご理解とご協力をよろしく願いいたします。

事務局移転のお知らせ

平成25年12月19日(木)をもって、事務局が元城小学校内から砂丘小学校内に移転しました。

《新住所》

〒430-0846 浜松市南区^{しろわちょう}白羽町2512 浜松市立^{すなおか}砂丘小学校内

TEL : 053-443-8527

FAX : 053-443-8747

E-mail : nobiyukuhamako@y3.dion.ne.jp (変更なし)



日本語・学習支援

平成25年度から支援体制が新しくなりました。支援員に新体制に変わっての感想を寄せていただきました。

日本語・学習支援員 青島 晴己

今年度より、元城小での小中学生への通級型指導から、各小中学校への派遣型指導に変わりました。

私は中学生対象でしたが、通級型では、在日4年以内の生徒が大半であり、初級～中級の日本語を1回2時間・週2回の授業で系統的に教えていました。授業は、グループワーク形式で生徒同士が日本語でコミュニケーションをとる必要があったため、おのずと日本語能力の上達にもつながりました。また、外国人が少ない学校に通う生徒にとっては、母語で会話ができる貴重な場でもありました。

一方、新たに始まった派遣型では、時間割に応じて生徒を個別に取り出すようになりました。その中には、在日年数が長く日常会話には困らないけれども、学習言語の習得には困難を感じている生徒が多数存在します。グループワークが無くなった分、そのような生徒の学力向上を図るためには、スタッフ相互のより一層の連携が必要であると強く感じています。

ひとりひとりの生徒にとって、中学時代は今だけです。将来の夢を持ち、その実現のために努力し続けるモチベーションをあげられるように、外国人担当教員をはじめ、支援員、サポーター、指導補助者の皆さんとも協力しつつ、今後とも支援を続けていきたいと思っています。

日本語・学習支援員 須崎 幸代

河輪小学校は、校長先生はじめ学校全体が和やかで、先生方もとても親切に対応してくださいました。校長先生が外国人児童に対し「何かの縁で我が校に来てくれたのだから、みんなと同じ様に不自由なく楽しく学校生活を過ごして欲しい」とおっしゃったお言葉が印象的でした。担当した6年生は、4年生まで未就学で四則計算が完璧でない為に、算数で良い点が取れずいつも悔しい思いをしていましたが、授業が終わると机上のゴミを集め椅子を入れて、毎回丁寧に挨拶をして帰ります。担任の先生のご指導だそうです、色々な事を学習し、出来る事は実行していて偉いなと思いました。

今回私は算数の支援という事で、教科書を一から見なおし、授業の前にYouTubeで指導方法を捜し参考にしたりと、指導に苦労しました。

2学期からは、母語がポルトガル語の子が転入して来ました。私が今まで担当した初期の子供は低学年が多く、平仮名やカタカナ、導入動詞と形容詞等に時間をかけられましたが、4年生ともなると、四則計算、漢字ドリルと、日本語の導入と一緒にやらなくてはならない事が沢山ととても日本語だけでは伝えきれません。母語と日本語の両方を用い短時間で教えられるバイリンガルの先生方は素晴らしいと改めて思いました。生徒の顔から不安が消える瞬間を何度も見て羨ましくも思い、個人的にポルトガル語を学習しようと、ちょっと目覚めました(笑)。

母国語教室 まつこ

この一年間、各教室で講演会やコンサートが行われました。

- 7月27日(土) スペイン語教室 コンサート『フェルナンド・トリコさんによるペルー音楽』 なゆた浜北
9月7日(土) ベトナム語教室 講演会『情報モラルについて-携帯電話の使い方-』 三方原協働センター
10月12日(土) ポルトガル語教室 講演会『ユニバーサルデザインについて』 浜松市市民協働センター

- 修了式 3月1日(土) ベトナム語教室 三方原協働センター
3月8日(土) スペイン語教室 なゆた浜北
3月15日(土) ポルトガル語教室 浜松市市民協働センター



ベトナム語教室講演会
ロープとフープを使って
情報伝達の説明をしました。



スペイン語教室修了式
ペルーの民族衣装を着て



ポルトガル語教室修了式、
田村さん翻訳によるポルトガル語の
浜松市歌を歌いました。
サプライズで“家康くん”登場！



講演会 『インターネットの活用について』 平成 25 年 12 月 16 日(月) 講師:ホームページ担当 小林尚子

インターネット上にはさまざまな教育素材が無料で公開されており、上手に活用すればより魅力的な授業を行うことができると思います。インターネットでの検索の方法、怪しいサイトに誘い込まれないようにする、ウィルス対策をきちんとするなど、よく考えながら利用してみたいかがでしょうか。

参考URL:

http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social_02.html

<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/index.html>



講演会 『自由を求めて』

平成 26 年 3 月 17 日(月) 講師:ベトナム語支援員 山田 明

山田さんは、ベトナム名トラン・ヴァン・ミン、33年前に難民として来日しました。

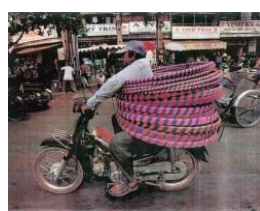
郷里はホーチミン市から80kmほどのメコン川沿いにあり、国内でも多数の難民が発生した当時、ゲリラに参加するしか生きる道がなかった山田さんは17才で南軍に従軍しましたが、その後、船を作って国外への脱出を試みました。ところが、台風に遭い、戻るに戻れず食べ物もない、というところをイギリスのタンカーに助けられました。そして滋賀県の難民施設、東京・品川の救援センター(3か月間日本語を勉強)を経て、浜松へやって来ました。

言葉の壁が厚く感じられたものの、カトリック教会が拠り処になってくれました。HIGEと連携して国際交流にも尽力。大人のための日本語教室やベトナム人集会なども続け、来日当初10人だったベトナム人協会は今1,150人になっているそうです。

講演では、来日したばかりの頃の山田さんと友人たちや、中秋の名月やクリスマスを祝う子どもたち、そしてベトナムの街中を何でも運ぶオートバイのびっくりするような写真が次々と紹介されました。

ご両親はお兄さん家族と一緒にアメリカで暮っていたそうですが、7年程前にお会いした後他界されました。「お前はベトナムには帰らない方がいいよ」と言われたお父さんの言葉通り、今も山田さんにとってベトナム社会主義共和国は「足を踏み入れたくない祖国」だそうです。その重い言葉が胸に刺さりました。

フランスの保護国としての60余年(途中日本軍の進駐を挟む)、また南北に長いベトナムの国が気候の違いに留まらず、文化・経済・政治的な違いからも民族分裂を強いられ大国の軍事介入を招いた歴史に、平和な国日本の国民として考えさせられたひとときでした。



バザー 平成 25 年 12 月 16 日(月)

元城小、最後のバザーでした。今回は、移転を控えて、これまで事務局に置いてあった教材、書籍を中心とした品物が出品されました。おかげさまで、28,267円の売り上げがありました。ありがとうございました。



総会・講演会のお知らせ

日時 : 平成 26 年 5 月 24 日(土) 10 時~12 時

場所 : あいホール 3F

講師 : 元小学校教諭 菅沼 敏之 氏

演題 : 「わかる算数 その2」

広報担当:川島、萩原、吉野